

て い か ん こ こ う

# 定刊弧光 第二号

## その時、その場、に苦心する。

先月、4日間にわたるピア・カウンセリング講座が無事終わった。2泊3日の集中講座のまえに、1日限りのビギナーズ講座をセットした。どちらも定員10名で、申し訳なく選考を余儀なくした人もいるが、過ぎてみれば、障害者・健全者含めスタッフともに感激に胸が一杯であった。

これまで多くの講座を経験した。ともにリーダーシップをとる人からは注目を、参加する人からは自分自身に向き合う真摯な姿勢に、いつも感銘を受けている。ご存知のように、ピアとは「仲間」を意味し、ピア・カウンセリングは障害を背景に持つ人どうして話を聞きあうカウンセリングの一種である。講座初日オリエンテーションでは、交流会をのぞいた講座自体、障害者のみで進行していくものであり、講座を作り上げるのはここにいる一人ひとりである、と欠かさず伝えている。

この言葉の真意は、これまで障害者が何もできない人、助けてもらってばかりいる人とおもわれ、言われてきた。そしてそうおもい込んでいる障害者もいる。この講座は身体・知的・精神・聴覚・視覚とあらゆる障害を持つ人が参加するが、異なるがゆえにサポートの必要性に気付くことがある。今回の集中講座でもそうであったが、日に日にサポートに満ち溢れた空間が目の前に広がっていて、講座はみんなが作っていくものという意識を、あらためて深々と意識させてもらった。

職場内の雰囲気も、あえて作る環境だと考えれば難しいものである。そもそも、私にとってみれば地域で自分らしく・生きいきと暮らすうえで、介助者とのように向き合うかは大きな関心であるが、介助者が仕事モードならば、私自身どうしても同じである。「人に世話を乞うなら相手の顔色を窺う」とまとった術が覗くが、それだけでなく「うまく振る舞う」との志向が働くから仕方がない。理路整然とした指示、管理した関係性、優しくおもいやり溢れた素晴らしい上司でありたい。

新しい事務所での仕事がスタートしたのだが、各人とも素晴らしい行動が心強い。障害者の権利擁護を目指して一人ひとりが自覚ある行動をとって欲しい、そう伝えてきた。けれどもそれは「うまく振る舞う」ということでなく、サポートをもらうことを躊躇しない自覚である。

「できる・できない」という能力に価値をおく社会で生き抜くと、サポートし合う関係を作る可能性が閉ざされていく感がある。もちろん、人はひとによって生かされる一面という意味でサポートを自覚してもいいとはおもう。だが今のところサポートを得るには力がある。サポートを欲しいと伝える時も、期待したサポートを得られない時も、そのどちらでもエネルギーは使う。

私は、障害者としての振る舞いを身に付けて生きてきたと感じている。うまく振る舞うこと自体、介助中それを介助者に見せていることになる。一人暮らしを続けて、介助者がそれに気づいているかは問題ではなく、私が気付いたということが大事だった。だからこそ、介助者にもその機会があればよいとおもう。だから、この職場では自分自身が権利意識に自覚めていくということを保障する場でありたいと願い続けるのだ。

(文責 おかだけんじ)

## 介助時々休み、ときどき研修

自立生活センターアークスペクトラム(以下CILアクスペ)では、年4回ワークショップ形式でおこなう介助者向け研修を実施しています。今回は「自立支援」がテーマです。自立支援の考え方と方法を理解し、職員の役割を把握することが目的です。その大要をご紹介します。



### ◇ すでにその支援の輪の中にいる

研修の冒頭、CILアクスペの組織・指揮系統を題材に、何故このような組織化に取り組む必要があったか、という説明がされました。まず第一に、すべては障害者の自立支援と地域生活を実現するためのものであり、特定のセクションで、特定の職員に力を付与するものではないこと、そして第二に、日頃より就業する人はこの組織・指揮系統のもと「すでにその支援の輪の中にいる」という認識に立つことが、自立支援を考える際の基本的なスタンスになると指摘されました。

#### 参加者の声

- アクスペの指揮系統をあらためてみると、まず利用者の自立を第一として活動すべきであるという団体の考えが改めて深く考えられるようになった。

### ◇ あくまで主体は障害者本人である

その後「自立支援をする際の主体は誰か」との項に移り、ケアマネジャーが、ケアマネジメントをするにあたり「要援護者やその家族が持つ複数のニーズと社会資源を結び付ける」という本来的な目的は同じであり主体は本人としつつ、しかし、その家族を支援する場合もありうる。指摘。多くの場合、経験則として、自立をする本人を前にしてCILのみが支援を引き受けざるを得なかった現状や、社会資源として連携なく個別的な対応に終始してしまいがちな支援を例に挙げ、本人の自立生活を実現するという一致点で支援の輪を広げていくことが、本人の自立には何よりの近道であることが述べられました。

#### 参加者の声

- 自立生活をするということは、さまざまな障害を乗り越えなければならないということを学びました。自分の意思で生きていける、本当の意味での自立ができる、優しい社会になればいいな、と思いました。そのために僕ができることは何だろう。また頭を抱えて寝られない日々が続きます。

## ◇ 際立つ社会資源となるために

次に、ニーズの把握と社会資源とを結びつけるという項で、地域での暮らしを豊かにしていくために社会資源があり、障害者本人に必要な社会資源を把握していくためには障害者本人のニーズを把握することから始まると強調されました。そして「ニーズは本人の中にある」「本来聞き取れないニーズはない」のだということ、数ある社会資源の中でCILが「際立つ社会資源・埋もれない社会資源」として機能するには、まさしくこの本人のニーズを疎かにしない不断の努力があると指摘されました。また、CILのおこなう自立に関する取り組みは多岐にわたるが、権利擁護を抜きにした取り組みをもっともなことだとして過大に評価しない姿勢が求められると述べられました。

### 参加者の声

- 今までの理解としては、自立を支援するのは、アドバイスのな部分が多いと感じていましたが実際に研修を受けて、そのような部分があまり多くないことに気づきました。

## ◇ 休憩をはさんだ後、事例をとおしてサポートの手段や方法をグループに分かれて検討し合いました。

### 参加者の声

- 事例を用いてグループに分かれての話し合いでは、本人のニーズを推察しましたが、文章から本人のニーズを考えるのはとても難しく感じたが、実際利用者の方を前にして、ニーズを聞くのはもっと難しいんだろうなあと思いました。
- 事例を使ってのグループ討論などでは、自分の考えだけでは頭になかったものが次々と出てきて、新しい発見がありました。自立支援は、色々なことを役割を決めてそれぞれが行なう難しいものですが、いずれくる道なのでその時のためにしっかりと研修で学んだことを実行していきたいです。

ぶんせき けー  
(文責 K)



集中講座を終えた皆さんへご案内

## セッションデーのご案内

自立生活センターアークスペクトラムでは、集中講座を修了した人を対象にセッションをおこなう時間をつくっています。

集中講座を終えた後セッションをする相手が見つからなかったり・日常的にセッションするには難しい環境にいたり…一人で悩んではいませんか？セッションには静かで、安心して取り組める場所が必要です。そんな場所と時間をご用意します。

- 日程：7月18日（土）
  - →次回以降は第3土曜日（都合により中止の場合もあります）
- 時間：13時～14時（時間を超える場合があります）
- 場所：アクスぺ事務所
  - →〒615-0022京都市右京区西院平町6三喜ビル1F
  - →電話・FAX：075-874-7356
  - →メール：cil-arcsp@rg7.so-net.ne.jp
- 申込方法：電話・FAX・メールで申し込んでください
  - →参加される方は、必ずご連絡ください。
- 担当：岡本

## アークスペ事業報告

### ○ピアカンビギナーズ

2009年5月8日ピアカンビギナーズを本願寺聞法会館にて行いました。アークスペとしては初めての講座でしたが、色々な地域から9名、参加してくれて新たな出会いができました。ビギナーズでは、話を聞き合うことに重点を置いて、ピアカンの大切な事柄を共有しました。

～参加者の声～

【参加者Aさん】

聞くことの難しさを痛感した。時間の経過を早く感じるくらい楽しくて有意義な時間でした。

【参加者Bさん】

ピアカンの大切さを改めて感じました。セッションを繰り返すことで、自己解放につながることを強く感じた一日でした。

【参加者Sさん】

障害を持っている人同士なら気楽に参加できると感じた。次は集中講座にも参加したい。

### ○ピア・カウンセリング集中講座

2009年5月9日～11日、集中講座を本願寺聞法会館にて行いました。ビギナーズと続けてやるという新しい試みでしたが、じっくり講座をやれた感じがしました。

～参加者の声～

【参加者Hさん】

三日間とても充実した時間を過ごすことができたととてもよかったです。特に印象に残っているのは信頼についてのプログラムでした。

ピアカンで言う信頼と普通一般に言われる信頼との違いにはすごく考えさせられました。

また、この講座を通して沢山の人の考えにも触れることができ、同じ障害を持つ仲間ということで共感できる場所も沢山ありました。それにセッションをする中で、自分の内面を見つめ直すことができ、自分の中に抱えていた問題もしっかりと受け止めることができた気がします。

【参加者Kさん】

講座では一つ一つの項目に新たな気づきもあり、考え方や視点を変えると日ごろの生活が自分らしく楽におくれる事がわかりました。自分を癒せる時間でした。

改めて「ピアカンって素敵だなあ」「仲間って大切だなあ」と思い、みんなに出会い、頑張っている事も知りました。

【参加者Mさん】

今回参加をして皆さんに出会えた事が一番よかったです。また、ピア・カウンセリングがどのようなものか体験を通じて学びました。自分の心が解放されていくことが実感できました。

会場も落ち着いた雰囲気です安心してセッションできました。



集中講座参加者集合写真

# しんじむしょ アクスぺ新事務所！！

かつじよつじゆんしーあいえる  
5月上旬CIL  
アークスペクトラム  
しんじむしょ いてん  
は新事務所へと移転  
しました。

がつ かいしゅう  
3月から改修  
こうしきんむたいせいちようせい  
工事勤務体制調整、  
びひん こうにゆう きまざま  
備品購入など様々  
じゆんび  
な準備をしまいに  
まして、5月より  
しんじむしょ かいしよ  
新事務所を開所する  
ことができました。

また、移転の際に  
さまざま かたがた びひん  
様々な方々に備品  
ていきよう きようりよく  
提供などのご協力  
をいただきました。こ  
ば か  
の場をお借りしてお  
れいもう あ  
礼申し上げます。



しんじむしょしょうめん  
新事務所正面です。

ほしよ さいいん すき ろか  
場所は西院駅近  
く、西大路高辻を西  
にし おおしたかつし にし  
に少し入ったところ  
すこ はい

はんきゅう けいふくてんでつ  
阪急・京福電鉄・  
私バスなど複数の  
し  
交通手段があります。

えいぎよう じかん へいじつ  
営業時間は平日  
11時～18時とな  
っていています。

きがる た よ  
お気軽にお立ち寄  
りください。「ようこ  
そ！アクスぺへ！」  
きも むか  
の気持ちで、お迎え  
します



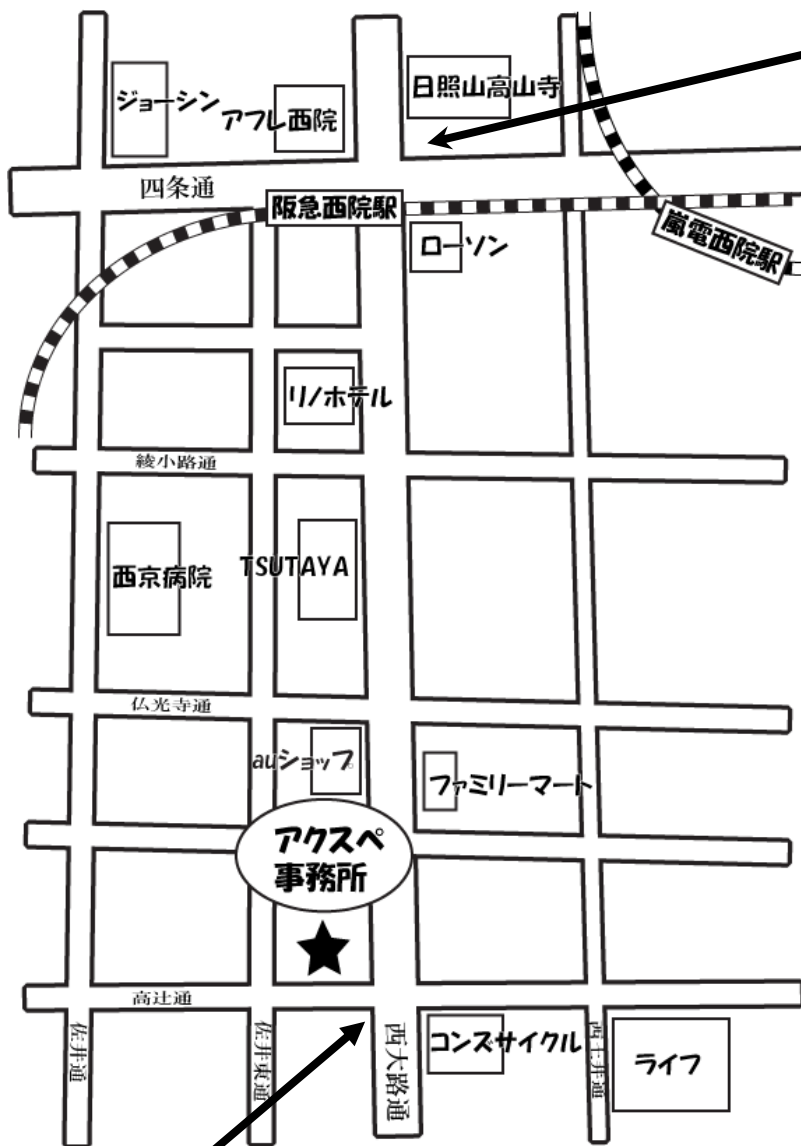
しむしょないふうけい  
事務所内風景です。



すく あたた ふんいき じむしょ  
スタッフは少ないですが温かい雰囲気事務所です。

# しゅうへんじょうほう しょうかい 周辺情報ご紹介

じむしょしゅうへん 事務所周辺マップ



## さいいんえきしゅうへん ○西院駅周辺

はんきゅう らんでん かくさいいんえき  
阪急・嵐電の各西院駅が  
あり、市バスの路線も多く、  
それに合わさるように、  
いんしょくてん コンビニ・書店など、  
飲食店・コンビニ・書店など、  
しゅうへん しせつ じゅうじつ  
周辺施設も充実しています。  
お昼時・土日は人通りが  
とても多くなります。

はんきゅう さいいん えき うら はい  
阪急西院駅の裏に入ると、  
カラオケ店がありアクス  
ペメンバーも利用しています。

くるま しょうじゅう しょうしゅう  
車いすでの交通機関利用  
ですが、3機関ともにスロー  
プを利用して乗車できま  
す。ただし、はんきゅうさいいんえき  
阪急西院駅はホームが地下にあり階段  
しょうこうき (エスカル) が設置さ  
れています。残念ながらエレ  
ベーター・エスカレーターで  
はありません。

## じむしょしゅうへん ○事務所周辺

さいいんえき みなみ めーとるほどさが ところ しんじむしょ  
西院駅から南に 500 M 程下った所に新事務所があります。ここまで来ると  
さいいんえき いくぶんしず  
西院駅より幾分静かになります。

いんしょくてん しょくいん じむしょしょうめん そば や ちか  
まわりには飲食店・スーパーがあり、職員は事務所正面の蕎麦屋・ライフ近くの  
カレー屋でお昼を取ったりしています。



かいじょしゃ

# 介助者リレートーク

## —第2走者 丹羽弘典—

このページではアックスで働く介助者をリレー形式でご紹介していきます。  
今回は第2走者、丹羽弘典さんです。

私は丹羽弘典です。年齢は32歳です。昨年アークスペクトラム設立時に愛知県名古屋市の隣町にある清須市から京都へ引っ越してきました。こちらに来て約1年になります。京都の生活にも慣れてきました。でも京都の言葉には慣れず、今でも名古屋弁で話しています。趣味は旅行で、特に鉄道を使った旅行が好きです。

京都へ来る前は、名古屋市にある事業所で介助者として働いていました。以前は、色々な職種の仕事をやってきました。しかし、心身の事やリストラなどの出来事があるあって、どれも長く続ける事ができませんでした。その時、本当に自分は何をやりたいかたのたろう、ということが無職だった当時、色々と考えました。私が大学生時代、福祉系の職業に興味を持ちながらも、他業種へ就職してしまったので、その後悔がありました。そこで本当にやりたいかった福祉の仕事に就きたいと考えました。そして名古屋市にある事業所で介助者として働くことになりました。そこでは、いろいろな障害を持った方と知り合い、たくさんの考え方を学び、いい思い出や出会いがありました。そして昨年、京都で新しく事業所を建てるということで、自分も新しいことに挑戦したいと思い、生まれ故郷の愛知県を離れることに決めました。

今は、介助の仕事以外にも、人事の仕事を担当し、運営の仕事にも携わるようになりました。労務管理や給与計算など新しい事をはじめ、今は日々勉強ということで頑張っています。

第1走者青木さんから丹羽さんへ質問

Q. 電車のことについてとても詳しい丹羽さんですが、なぜ電車に興味を持ったのですか？また好きな電車とかも教えてください。

A. 列車に興味を持ったのは、幼少の頃です。実家の近くを走っている名古屋鉄道（名鉄）と東海道新幹線を見に行ったら事から始まります。そして時が経つにつれ、色々な所へ列車に乗って行きたい、という気持ちに変わりました。それで数年かけて、沖縄県以外の都道府県を列車に乗って周ることもやりました。今は、JR全線完乗を目指している所です。

好きな列車は、九州の列車です。九州の列車は外観や車内、そしてサービスがとても素晴らしく、乗っているだけで観光という列車がたくさんあります。また、旅行先の記録（旅行記）を自分のホームページ（<http://tora3.nce.butobi.net/>）に載せて残しています。



#次回の第3走者は緒方邦男さんです。  
丹羽さんから第3走者緒方さんへの質問

Q. 自転車でお出かけすることが好きと聞きました。その魅力を教えてください。



# 開設、そして開催。

- 自立生活センターアークスペクトラムでは、今秋10月24日（土曜日）ハートピア京都にて「自立生活センターのあゆみ、出会い、これから（仮称）」を開催することに決定いたしました。
- このシンポジウムは、自立生活センターアークスペクトラムの設立1周年を記念として行われます。今後、地域に密着した活動をおこなう上で新たな事務所へ移転したおり、参加される皆さまへのご挨拶という性格も併せもっております。
- 内容の詳細は後日に譲ることになりますが、1960年代より始まる自立生活運動の歴史を振り返り、運動主体を担ったCILが何を目にし、何を経験し、何を得てきたかを伝えるものになりたいと思っております。1部では、安積遊歩氏の講演、二部では立岩真也氏も交えてのトークセッションです。著書「生の技法」を持つお二人に当時の出会いを縦横無尽にお話し頂きつつ、その本に感銘を受けた障害者も参加して未来の自立生活センターのあゆみを考えるものです。

◆ 日時：10月24日（土曜日）13：00～16：30

◆ 場所：ハートピア京都

◆ 内容：打ち合わせ中

□ 主催自立生活センターアークスペクトラム  
京都市右京区西院平町6三喜ビル1F  
Tel/Fax:075-874-7356  
Mail: cil-arcsp@rg7.so-net.ne.jp

安積遊歩氏、  
立岩真也氏、  
来る

れんさい そう  
■ 連載コラム 『ことば草』

ひと しんか しゃかいこうちく  
人の進化～社会構築～

「人はひとりでは生きていけない」

親に、それとも学校の教師に、ひょっとしたらテレビの中の主人公を導く牧師にか。この教えは人生の中で、よく耳に入る（諭される）ものだ。天邪鬼な子ども時代、私はこの世間的にさわりの良い台詞に懐疑的だった。とは言っても「ひとりで生きられるんだ」と無人島に籠もったことはない。今ではその言葉には素直に首肯する。当たり前だが、人がこの社会では生きていくため、周りの人と関わりを持つことが必要不可欠だ。意思を持って、会話をし、感情を出すことで人は成長して行く生き物なのだから。

コミュニケーション能力に長けた人間は、互いを知り、知識を共有し合い、人間のコミュニティーを拡大して行った。そして文明といえるほどの人口と歴史を持ち合わせた時、コミュニティは大きく重厚なうねりのある“社会”を形成する。“社会”は文明の発展をもたらしたし、戦争を引き起こした。

私たちはその“社会”の中で生きている。そして、当然“社会”は個人の人格形成にも大きく影響している。その人物の生まれた環境が人格の本格に繋がる根幹になる。親の育成方法や、幼少時の社会環境など。ここで形成されたものは、大人になって変わることはあまりない。厳格な家庭なら自身や周りに厳しい性格になるし、逆に抑圧され、後々それが爆発することもある。

他の形成段階は学校での環境がある。クラスという見事な“社会”の縮図があり、そこでたくさんのことを経験する。部活・恋愛・社会活動。この期間は“社会”で生きるための経験を積む時と捉えられている。

これまで述べてきた人格形成の要因だが、これらは“社会”のうねりの産物と捉えられる。例えば、その時代の“社会”の男と女の理想像があり、それが教育方法に影響する。昔は「男は勇ましく、金を稼ぎ、家の大黒柱としてどっしりと構える」「女はしとやかで、料理・裁縫ができ、家内を大人しく守る」という代名詞的な表現を用いて稽古などをやっていたのだろう。別の事柄では礼儀作法もそうだ。国や地方で食事や挨拶の方法が違う。喜ばしい表現が場所を移すと失礼に値することもあるだろう。連綿と続くそれは文化とも称されるし、差別と非難もされる。人類の長い歴史のなかで数多の道徳観・思想があったが、それらは自然淘汰のようにまた新しいもの、また新しいものと変革していった。それはDNAではなく歴史に刻まれる生物の進化の一種と考えられないだろうか。一時代にも多種多様な思想があり、主流・副流それぞれの思想に今ではない当時の善・悪がある。それが時を重ね、進化を経て現代に至り、変わらず思想の論議を交わしている。

今も続く男女問題、戦争、道徳倫理、あらゆる議題があるが、私たちCILの活動も障害者の権利問題という点で人の思想的進化の一端を担っている。次の世代の子どもたちに新しい“社会”で生きてもらうために“社会”のうねりのなかに怯まず進んで行き立ち向かわなければならぬ。進化の道を進むか、退廃するかは私たち人類の選択次第だ。（文責：岡本雅博）



かつどうきろく  
**アークスペ活動記録**

2009年3月～2009年7月

<p>3月16日：自立支援法に関する学習会の実施</p>	
<p>3月19日：機関紙「定刊弧光：創刊号」発行</p>	
<p>3月26日：新事務所内装工事スタート</p>	
<p>3月28日：街頭宣伝&amp;ビラ配りを実施</p>	
<p>4月上旬：第四期、新人介助者の求人・面接・採用・初回研修の実施</p>	
<p>4月1日：「障害者自立支援法訴訟の勝利を目指す京都の会」発足集会に参加</p>	
<p>4月15日：着床前診断に関する学習会の実施</p>	
<p>4月20日～22日：推進協会研修（オリンピックセンターにて）へ参加</p>	
<p>4月27日：新事務所へ引越し、開設</p>	
<p>5月8日：ピアカンビギナーズを実施（西本願寺間法会館にて）</p>	
<p>5月9日～11日：ピア・カウンセリング集中講座を実施（西本願寺間法会館にて）</p>	
<p>5月19日：街頭宣伝&amp;ビラ配りを実施</p>	
<p>5月24日～26日：JIL所長セミナー&amp;総会へ参加</p>	
<p>5月30日：介助ワークショップ～自立支援編の実施</p>	
<p>6月16日：街頭宣伝&amp;ビラ配りを実施</p>	
<p>6月20日：セッションデーの実施（以後、毎月第三土曜日実施予定！！）</p>	
<p>7月3日：機関紙「定刊弧光：第二号」発行</p>	



じりつせいかつ かいいん だいほしゅう  
自立生活センターアークスペクトラムの会員を大募集！！

わたしたち かつどうしゅし さんどう にゅうかい  
私達の活動趣旨に賛同のうえ、ご入会ください。  
かいいん きかんし かくしゅ さそ じょうほう  
会員になると、機関誌、メーリングリスト、各種イベントへのお誘いなどいろいろな情報  
を届けします。

しきんめん えんじょ さんじょかいいん きかんし こうどく どくしゃかいいん だいほしゅう  
また、資金面で援助していただける賛助会員や機関誌を購読してくれる読者会員も大募集しま  
す。

- いっばんかいいん ひとくち えん きかんしこうどくりょうふく  
・一般会員：一口 3,000円（機関紙購読料含む）
- さんじょかいいん ひとくち えん きかんしこうどくりょうふく  
・賛助会員：一口 3,000円（機関紙購読料含む）
- きかんしどくしゃかいいん ひとくち えん  
・機関誌読者会員：一口 500円

かいひ ぶりこみ きぼう かた  
会費の振込みを希望される方は…

⇒ ⇒ ゆうびんぶりかえこうざ  
郵便振替口座：00930-5-321253

かにゅうしゃめい じりつせいかつ  
加入者名：自立生活センターアークスペクトラム

ぶりかえようし ひつよう かた きがる もう つ  
※ 振替用紙の必要な方はお気軽にお申し付けください。

へんしゅうこうき  
編集後記

がつ だいちこう そうかん げつ た きづ だいにこう かんこう  
3月の第一号の創刊から3ヶ月が経ち、なにやら気付いたら第二号の刊行になっていました。  
あいだ しんじむしょ かいしょ かわき はつ えきまえ がいとうせんでん  
その間、新事務所の開所を皮切りに、アクスベ初のピア・カウンセリング、駅前での街頭宣伝な  
どなど、ここ京都・西院から、多くの人に向けて私たちがCILアークスペクトラムを発信でき  
たと思っています。私自身はピアカン実施、セミナーへの参加でたくさんの人に出会えたこと  
が一番うれしかったです。それまであまり知らなかった他団体や参加者の方々と、お互いの話  
をして意見交換をすることで、自分の視野が広がり、新たなモチベーションになりました。

わたし う しゃかい うなばら なか かじと  
私たちアクスベは生まれたばかりで、この社会の海原の中でうまく舵取りをできないかもし  
れません。しかし、ピアカンにご参加いただいた方々、この機関誌を手にとって下さったみなさ  
んと関わりを持ち続け、流れる風を読み取り、少しずつ少しずつ前へと進んで行きたいと思いま  
す。  
ぶんせき おかもとまさひろ  
(文責 岡本雅博)

へんしゅう じりつせいかつ  
《編集》 自立生活センターアークスペクトラム

きょうとしょうきょうくさいいんたいらまち さんき かい  
〒615-0022 京都市右京区西院平町6 三喜ビル1階  
TEL・FAX：075-874-7356 MAIL：cil-arcsp@rg7.so-net.ne.jp  
URL：http://2nd.geocities.jp/cil\_arc\_sp/